

可能性は無限大

～仙台・第15回スポーツシンポジウム～

仙台大学タイムス



仙台大学

交通アクセス
JR東北線
船岡駅(宮城県
柴田町)から
徒歩15分



「復興五輪」の先を問う

「復興オリンピックとスポーツ振興」2020オリンピック後を見据えた宮城のスポーツ振興を考える」と題した第15回スポーツシンポジウム(仙台市、河北新報社、仙台大学主催)が18日、仙台市青葉区のせんだいメディアテークで開かれた。五輪の意義を被災地からどう捉えるかについて意見交換した。

会場には市民やスポーツ関係者ら約150人が詰め掛けた。開会のあいさつで仙台大学の遠藤学長は、仙台大学と宮城県柴田町、白石市が取り組む五輪ホストタウン事業(新体操競技ベラルーシ受け入れ)をホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんと説明した。基調講演で筑波大学体育系教授の真田久氏は関東大震災を例に挙げて、スポーツの復興に果たす役割を強調。「スポーツには力がある。それを復興のエネルギーにどうするかが問われ、開会のあいさつをする遠藤学長(右)とアリーナさん

サッカー競技は宮城スタジアム(宮城県利府町)で男女10試合を行う。福島市の県営あづま球場でもソフトボール6試合と野球1試合が予定されている。来年3月には五輪の聖火がギリシャから航空自衛隊松島基地(宮城県東松島市)まで運ばれる。ギリシャのオリンピックで3月12日に採火された聖火は、19日にアテネで引き継がれ、全日空と日本航空が共同運航する特別輸送機「TOKY

東京五輪と震災被災地

「O2020号」で空輸。東日本大震災で被災した松島基地は、復興五輪の理念から聖火到着地となった。聖火は20日の石巻市を皮切りに25日まで宮城、岩手、福島3県で「復興の火」として展示され、リレーは26日、福島県楡葉町・広野町のサッカー施設「Jヴィレッジ」をスタートする。聖火リレーのランナーは各県独自の基準により今年12月末まで選ぶ。全国で総勢約1万人が走る。

サッカークラウドなど語られていた。復興の姿を世界に発信する必要性を訴えた。討論は仙台大学体育学部講師でオリンピックの歴史や文化に詳しい荒牧亜衣氏をはじめ、石巻市スポーツ協会会長の伊藤和男氏、スポーツライミングプロクリイマー・2018 IFS Cクライミングワールドカップ優勝者の杉本怜氏をパネラーに、共同通信社スポーツ企画室委員の船原勝英氏が司会進行役を務めた。荒牧氏は研究者の立場から今回の東京五

輪の取り組みや意義を分かりやすく解説。ほかの発言者たちも具体的事例を述べながらスポーツの可能性について意見交換した。パラリンピックを含めた東京2020は次世代へ受け継ぐレガシー(遺産)と東日本大震災からの復興アピールという二つのテーマを抱えている。両大会の組織委員会は、世界最大のスポーツイベント「夢」、「希望」、「絆」... シンポジウムを通して具体的なカタチが少し見えってきたようだった。

おとわ 本紙面は仙台大学体育学部スポーツ情報マスメディア学科の学生がスポーツシンポジウム開催に向けて製作したものです。後日、本学ホームページで公開します。

五輪後 復興はどうなってますか

きれいなごただ●復興への気持ち見たい

仙台市泉区・無職・70代・寺岡良一
復興オリンピックと
いうタイトルに対し
て、きれいごとでは
ないのか。さらにオ
リンピック後の震災
復興に関して、観光
客が被災地に目を向
けるのか疑問に思っ
た。

言葉に関してはい
まりピンとこない。
復興10年と言っ
ているがあまり期待は
できない。否定して
いるわけではないが、
みんなの期待に沿え
るようにしてほしい。

仙台市太白区・アルバ
イト・60代・三浦俊克
オリンピックを見に
来るだけではなく、
被災地に足を延ばし
て、被災地の状況を
見てもらいたい。オ
リンピックで震災に
ついて語るボランティア
をする人がいるこ
とだし、オリンピック
後にも被災地を訪
れて経済効果をもた
らしてほしい。

仙台市泉区・学生・10代・間垣皓介 復興
オリンピックが震災
復興に大きく関わっ
てくると思う。東京
都民や選手が復興す
るといふ気持ちもぜ
ひ見せてほしい。そ
うならなければいい
結果は出てこないの
ではないか。

**宮城県川崎町・スキー
クラブ会長・50代・鹿
野秀文** 五輪は日本に
さまざまな効果をも
たらし、復興の良い
チャンスとなる。特
に五輪に協力するこ
とが震災復興のソフ
ト面に影響してくる
のではないか。

仙台市若林区・無職・70代・守谷たかし 復
興オリンピックとい



●効果絶大のイベント●ピンとこない

●経済効果を期待●レガシーが課題

**仙台市太白区・アルバ
イト・60代・三浦俊克**
オリンピックを見に
来るだけではなく、
被災地に足を延ばし
て、被災地の状況を
見てもらいたい。オ
リンピックで震災に
ついて語るボランティア
をする人がいるこ
とだし、オリンピック
後にも被災地を訪
れて経済効果をもた
らしてほしい。

**仙台市泉区・宮城ス
キー連盟理事・50代・
峯岸浩之** IOC、TOC
などと東京都の間に
問題が残っている。
ばく大な予算を投じ
て開催するオリンピッ
クが遺産・レガシー
を残せるかが課題で
ある。

**○五輪ホストタウンへの
仙台大学の取り組み**
仙台大学は宮城県
柴田町、白石と共に
ベラルーシ共和国新
体操の事前合宿を受
け入れている。20
17、2018年と



事前合宿受けいれて
いる。同時に公開演
技会の開催や日本文
化の体験、子供たち
との触れ合いを実施
するなど市民を巻き
込んだ形で交流を行っ
ている。

東京オリ・パラ事
前合宿招致推進協議
会会長は、仙台大学
の朴澤泰治学事顧問
(朴沢学園理事長)
が務めている。本年
も事前合宿を受け入
れ同国のイリーナ・
レパルスカヤ・ヘッ
ドコーチは「大変感
謝しています。素晴
らしい環境の下で練
習ができることは本
当に恵まれています。
応援してください。皆
さんのためにも頑張
ります」と感謝して
いる。

(敬称略)
〔編集〕伊東かれん、植
崎佳蓮、及川碧人、伊藤
佳菜、植田京太郎、大友
颯太、岡部豊幸、小野寺
博紀、金沢奈月、矢戸翔
紀、関谷大、高橋凌、中
山輝一、成田悠、原田祐
貴、松崎拓真、谷地勁児、
横山亜斗武、秋山達也、
阿部竜弥、神田紗希、近
東賢、佐々木崇人、佐藤
英太、長澤海喜、畠山太
佑、古川知夏、三浦舜稀、
三上優真、安田大陸
IIスポーツ情報マスメディ
ア学科2・3年生